

事業番号	16 01 18	事業改善シート（25年度実施事業分）			<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	子ども安全総合対策事業				担当課	部局	警察本部	
総合5か年計画	プロジェクト				課・室	少年課		
	施策の総合的展開	4-2 県民生活の安全確保 1 犯罪のない安全な社会づくり			E-mail	police-shonen@pref.nagano.lg.jp		
					実施期間	S29 ~		

### 1 事業の概要

目指す姿	将来を担う子供の非行防止及び被害少年に対する保護、少年の立ち直り支援等について関係機関・団体及び地域と連携した協働作業を行うなど施策の充実を図り、子供の安全対策、規範意識の醸成、少年非行防止及び少年の保護支援などを推進し、安全で安心して暮らせる地域社会の実現を目指す。		
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>少年の非行件数は3年連続で減少しているものの、人口比では成人の約4倍、共犯率は成人の約2倍、再非行者率は約3割と高水準で推移している。加えて少年非行の低年齢化が進み、凶悪犯罪の発生など少年の非行情勢は厳しい状況である。</li> <li>スマートフォンの普及などによる少年に悪影響を与える情報の氾濫、児童に対する性的犯罪、いじめ問題等、少年を取り巻く環境が大きく変化している。</li> </ul>		

県が関与する理由	県でなければ実施不可（法令等義務）	【左記の説明、根拠法令等】 警察法、警察官職務執行法、少年法、児童福祉法、児童買春・ポルノ禁止法、出会い系サイト規制法、児童虐待防止法、少年警察活動規則 他
	県民との協働による実施：困難	

事業内容	① 成果目標（H25）						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが被害者となる事件を未然防止するとともに、将来を担う少年の非行防止・健全育成活動の推進を図る。</li> <li>非行少年の立ち直り支援活動の推進を図る。</li> </ul> （H29年目標：刑法犯認知件数15,000件未満）						
	② 事業内容 <span style="float:right">(単位:千円)</span>						
		項目	実施方法	H25事業実績	H25 (当初)	H25 (決算)	H26 (当初)
		1. スクールサポーター経費	直接	学校等と連携した少年非行防止、安全対策活動等を行うスクールサポーター7名の経費	15,424	15,034	15,465
		2. 少年警察ボランティア活動経費	直接	少年の非行防止、健全育成活動等を行う少年警察ボランティアの活動経費	6,186	6,077	4,396
		3. 子ども緊急通報装置経費	直接	子ども緊急通報装置に係る維持管理経費	843	816	826
	4. 子ども安全対策経費	直接	・子どもを守る安心の家表示の整備 ・子ども安全対策に要する広報啓発活動経費	1,822	1,729	1,945	
	5. 子どもの保護・捜査活動経費	直接	少年の福祉を害する犯罪等の取締りに要する経費	472	415	477	
	6. 少年立ち直り支援活動経費	直接	少年の規範意識向上活動及び少年の立ち直り支援活動に要する経費	211	199	222	
	合計			24,958	24,270	23,331	

事業コスト	区分(単位:千円)	23年度	24年度	25年度	26年度
	前年度繰越				
	当初予算	24,746	24,967	24,958	23,331
	補正予算				
	合計(A)	24,746	24,967	24,958	23,331
	国庫支出金	4,076	3,900	3,886	3,041
	県債				
	その他( )	77	79	66	66
	一般財源	20,593	20,988	21,006	20,224
	決算額(B)	22,594	24,329	24,270	
概算人員費	職員数(人)	0.01	0.01	0.01	0.01
	概算人員費(C)	83	83	83	83
	概算事業費(B(A)+C)	22,677	24,412	24,353	23,414

成果目標の達成状況					
項目	H24末(実績)	H25			H26目標
		目標	成果	達成状況	
刑法犯認知件数	H24 15,466件	(H29) 15,000件未満	H25 14,791件	達成	15,000件未満
フィルタリング利用率の向上	66.2%	100%	78.8%	未達成	100%

目標に対する成果の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>刑法犯における犯罪少年数は、921人と3年連続で減少し、統計をとり始めた昭和24年以降初めて千人以下となり、非行少年数にあって、4年連続で減少した。また、福祉犯罪検挙数を増加させるなど成果を上げた。</li> <li>刑法犯認知件数は14,791件で、平成29年度までに15,000件未満とする目標を早期に達成した。</li> <li>フィルタリング利用率の向上については、保護者の認識度・理解度の低さ、インターネット接続機器の多様化とフィルタリング機能の複雑化等により、目標数値達成には至らなかった。</li> </ul>
-------------	---

### 2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	<ul style="list-style-type: none"> <li>立ち直り支援活動を推進し、非行少年の再非行者率を低下させる。</li> <li>学校等における防犯教室、講習会等を通じて、児童・生徒のほか、特に保護者に対してインターネット利用に潜む危険性やフィルタリングの重要性と必要性を訴え、その利用率を高める。</li> <li>福祉犯を積極的に検挙し、少年を取り巻く有害環境浄化に努める。</li> </ul>